

京都モデルフォレスト運動の先駆けとなった取組み

京都林務事務所

【概要】

- 「京都モデルフォレスト運動」は、森林に関わる関係者が連携してみんなで森林を活用していこうというものです。
- 天王山から西山に連なる森林では放置竹林が拡大して森林機能が低下する中、竹の伐採により明るく開けた空間として健全な森林へ再生する行動が始まっています。
- この天王山及び西山での森林整備の取組みは、地元市町村、土地所有者、企業、大学、ボランティア団体など、地域の森林に関わる様々な主体が、協議を重ねながら、協働作業を進めている事例です。
- 活動を進めていく中で、所内で情報共有を進め、担当以外の職員も参加し、所内全体の取組みに展開してきました。この取組みを通じ、府民参画を探る新たな動きが出てくるなど、組織機能が向上してきました。

背景

- ◇ 林業が低迷する中で、所有者による森林の手入れが停滞し森林の機能が低下しています。
- ◇ 林業の振興、森林の整備・管理する業務を担当している組織として、新たな森林の整備の道筋を見いだすことが求められています。
- ◇ 府民参加の森づくりである天王山及び西山でのモデルフォレスト運動の取組みから学ぶものを、それぞれの業務に活かしていこうと考えました。

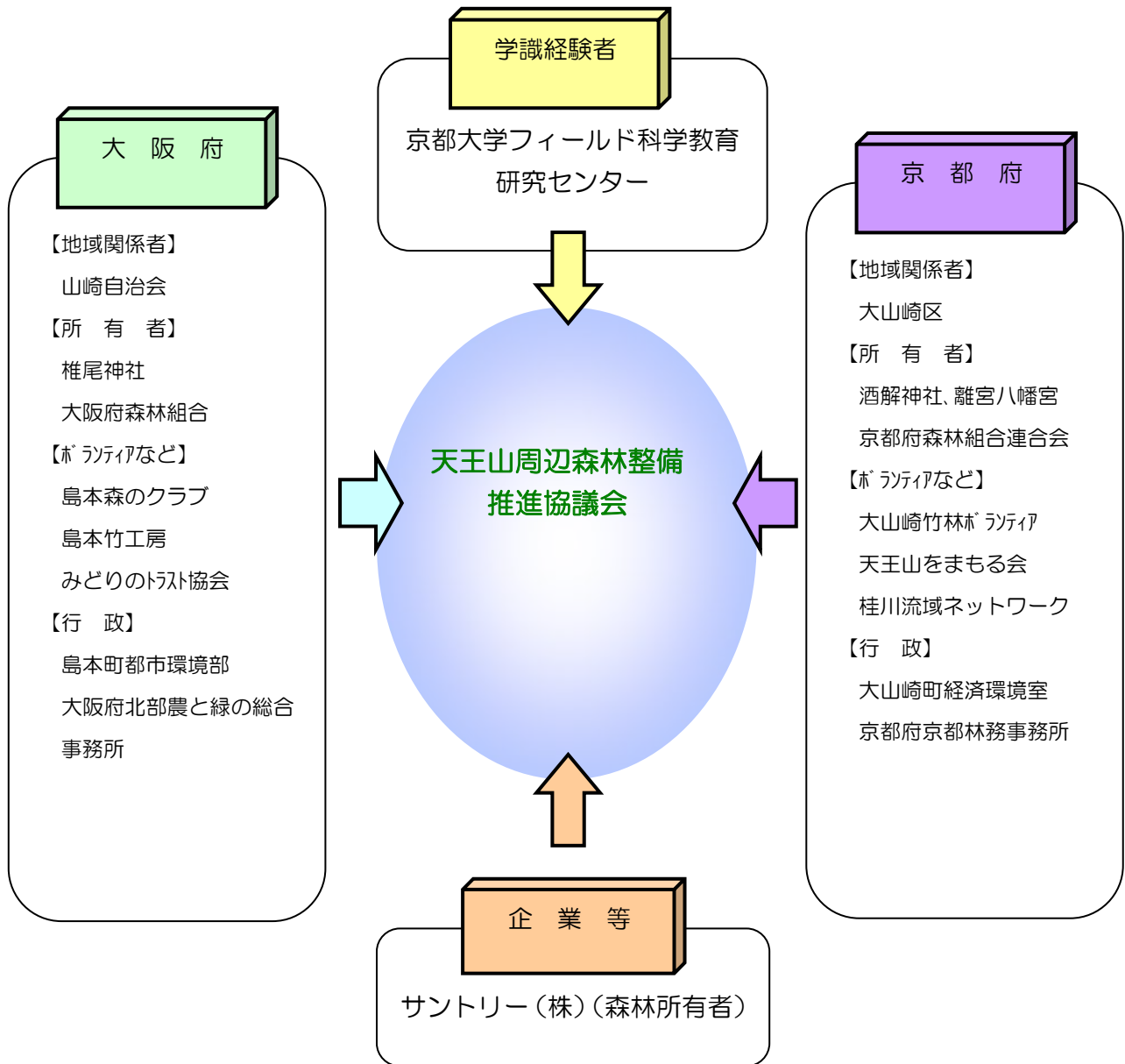
目的

「所内での情報共有を進め、事務所一丸となった取組みとすること！！」

新たな森林整備の取組みに関する情報を集め、積み重ね、よりよい仕組みづくりを提案し、みんなで森を整備・利用するモデルフォレスト運動の範囲を広げ、美しい森林として次の世代へ引き継いでいきます。

取組

<<天王山周辺森林整備推進協議会の仕組み>>



◇ 天王山及び西山での取組みは、府民参画・府民協働まさしくそのものであり、京都モデルフォレスト運動の先駆けとなっています。

- ◇ 美しい森林となるよう整備し、森林を育む仕組みを創っていくには、協議会を中心に様々な分野からの参画が必要です。
- ◇ モデルフォレスト運動は、机上ではなく、現場体験を通じて共に汗をかき、府民との協働作業を明るく楽しく行うことが重要です。
- ◇ 森林整備のイベントにスタッフとして参加し、参加者の森林に対する考え方・係わり方を知ることができ、また、所内会議等での対話を通じて職員間の情報共有を図っています。平成19年度までは林務課の4名のみが関わっていましたが、20年度からは林務課の普及指導員7名全員と、治山課、丹波広域基幹林道建設室に1名ずつの計9名が、新たに、モデルフォレストを担当業務に位置づけて取り組みました。



(西山森林ボランティア行事で参加者とともに〔林務課と治山課職員〕)

効果

- ◇ この取組みの価値観（美しい森として整備し、次の世代へつないでいく）の共有をきっかけにして、職員に「気づき」（森林はみんなで支える）が起こり、全ての課室の業務に関連して、新たな府民参加を探る動きが出てきています。
- ◇ また、天王山、西山での取り組みが京都でのモデルフォレスト運動の先駆けとなり、活動フィールドも広がっています。
- ◇ 府民の皆さんとの関係を構築する中で、森林が果たす役割をわかりやすく説明し、森林を守ることの重要性を理解していただくなど効果も上がっており、林務事務所の組織目的の達成につながってきています。

現 在

- ◇ モデルフォレスト関連業務以外の分野においても、府民参加・協働を探る動きが出ています。
- ◇ 治山課では、工事実施に関する地元説明会の中で、「山地災害対策と森林の機能回復」、「循環する資源として木材の活用による地球温暖化防止対策」への府民理解の醸成や森林行政への支援など、パワーポイントの映像による説明に積極的に取り組んでいます。
- ◇ 丹波広域基幹林道建設室では、林道沿線の地元小学生を招いて「親と子の植樹祭」の実施や地元婦人会による林道沿線緑化植樹活動を支援するなど、林道建設に伴う残土処理場などの緑化への取組みに関する理解と協働作業を実施しました。
- ◇ 豊かな自然を身近に引き寄せた林道の効果を評価している地域NPO 団体による林道沿線の自然環境維持管理パトロールも実施されています。
- ◇ 「森林・林業・森と人の係わり」をわかりやすく説明する林務事務所ホームページづくりに取り組んでいます。

振り返りと今後の課題

- ◇ 事務所としては、森林体験行事の実施を通し、森林整備の推進といった初期の目的をある程度達成できたところですが、「毎回、同じことを繰り返すお手伝いでは、進歩がない。」「今やっている業務との関係づけをどのように考えればよいかよくわからない・・・」などの意見が所内会議等で出されています。
- ◇ 単にお手伝いスタッフとして参加した森林体験行事での感想や要望を、今後どう発展させていくのか。継続性のある自主自立的な取り組みとしてどう仕組んでいくのか。職員みんなで、意見を出し合い理解を深めていくことが重要となっています。
- ◇ それぞれの課や室の業務に生かせるようなモデルフォレスト運動との係わり方の構築により、事務所全体で森林の整備利用を推進する取組みへ繋げていかなければなりません。
- ◇ 多くの府民の参画と様々な主体の協働による「森林を整備する仕組み」を、一つでも増やすよう、それぞれの仕事の中で取り組んでいきたいと考えています。

企画総務課コメント

京都モデルフォレスト運動は森林に関する関係者が連携し、利活用を図るというものです
が、この先進モデルとなったのが天王山から西山一帯で取り組まれた事業です。

京都林務事務所もそこに参画し、一緒に事業を実施していましたが、「担当は違ってもその
取組から学ぶものを自らの業務に活かしていきたい」と、担当以外の職員も参加していきま
した。

単に「お手伝い」ということではなく、府民のニーズを直接聴く機会ととらえ、今後の事
業に活かしていく仕組みづくりが生まれてきており、対話を通じた事業実践の定着を目指す
事例といえます。